



創樹 84

2022年10月20日発行

創樹会 SOUJUKAI

先日、「この道に入ったきっかけは？」と問われ、ハタと考えてしまい、この道の出発点を思い返してみました。高度成長期が始まったばかりの六十年も前の大変古い話です。当時、広島県内では、戦災孤児中心の児童関係施設以外には、精神薄弱児収容施設六方学園（広島）と福山六方学園がありました。成人施設はまだない時代でした。全国各地でも、納屋や蔵・座敷牢に閉じ込められた「知恵遅れの子どもたち」（※）が発見され、篤志家によって施設づくりが始められた時

広島県では新型コロナウイルス感染症の広がりが収まらない不安な日々を送っていますが、皆様にはお変わりございませんか？ お見舞い申し上げます。さて、この『創樹』の私の原稿は、今号をもって最後とさせていただきます。このたびの理事会と評議員会で、私の退任と退職が決まりました。昭和三十八年（一九六三）三月二十六日、初めて福山六方学園に足を踏み入れ、以来六十年の間、「障害福祉」に関わる仕事をさせていただきました。退任・退職を決意いたしました。これまで多くの皆様に励ましをいただきました。「障害福祉人生」でしたが、このあたりで幕を閉じさせていただきます。永年にわたり、ありがとうございました。感謝の気持ちで一杯です。

先日、「この道に入ったきっかけは？」と問われ、

ハタと考えてしまい、この道の出発点を思い返して、高度成長期が始まったばかりの六十年も前の大変古い話です。当時、広島県内では、戦災孤児中心の児童関係施設以外には、精神薄弱児収容施設六方学園（広島）と福山六方学園がありました。成人施設はまだない時代でした。全国各地でも、納屋や蔵・座敷牢に閉じ込められた「知恵遅れの子どもたち」（※）が発見され、篤志家によって施設づくりが始められた時

代ですし、知的な障害のある子を持つ全国の親たちも手を取り合って「手をつなぐ親の会」をくり始め、コロナ建設が企画された時代でもあります。私の生活もこの六十年で様々な出来事や困難があり、何度も大きな転機を抱える人生となりました。 ※かつて、知的障害のある人たちは「知恵遅れ」と言われることもありましたが、当時の状況を伝えるため、このように記します。

理事長 挨拶

この道六十年



ぶちええね

職員インタビュー

福山六方学園 / 信野 暁哉

入職のきっかけ

大学の実習で福山六方学園を知りました。最初は障がいについてよくわかっていなかったため、不安でいっぱいでした。しかし、明るく丁寧な職員の手導をうけ、この施設で働きたいと感じました。また、子どもたちの個々の特性にとても興味が湧き、もっと深く関わり、彼らの将来に携わっていきたく感じることがきっかけです。

仕事内容について

生活に必要な食事・入浴・排泄などの支援、子どもたちと遊ぶことが主な仕事です。学校や病院に通う送迎も行なっています。また、彼らが将来社会に出て活躍していくために、社会的ルールやマナーも覚えていけるよう支援しています。

日頃から大切にしていること

子どもたちをどれだけ楽しませられるか、子どもたちと楽しさを共有

心に残っているエピソード

実習生の時、理事長から「他の人から見ればガラクタにしか見えないものでも、本人にとってそれは宝石のように輝いて見えるんだよ」と言われた言葉がとても心に響いたのを今でも覚えています。人生において人それぞれ見え方考え方が違う中、この職に一番大切な考えなのではないかと思いました。障がい偏見を持つ人は多くいると思います。しかし今、職員として働いている自分が、学生さんにも福祉職の良さを伝えていければいいなと思いますし、今後子ども達や自分自身の成長のために努めていきたいと思っています。

今後の予定

コロナウイルス蔓延防止のため、各行事開催が未定となっております。



2022年7月1日～2022年9月30日

*お名前・グループ名のみ紹介し、お礼にかえさせていただきます。(敬称略・順不同)
*保護者・職員については記載していませんので、ご了承ください。

ご寄贈・ボランティア訪問

- ご寄贈・社会福祉法人 広島県共同募金会 ・生活協同組合ひろしま
・全天満屋労働組合 ・関係者2名 ・奥田商店

実習生

○保育士	7月11日～13日間	広島福祉専門学校	2名
	8月12日～12日間	安田女子短期大学	3名
	9月8日～10日間	広島文教大学	3名

ありがとうございます
ごぞいしました

あとかき

福祉制度の黎明期になされた様々な実践。西山前理事長の原稿を読み、これまでに積み重ねられた「命がけ」のやりとりに今があるのだと、あらためて実感しました。今後も、できるところから、私たちの「福祉=幸せ」につながる活動を進めていければと思います。(編集スタッフ一同)



発行日：2022年10月20日
発行元：社会福祉法人 創樹会 〒720-0832 広島県福山市水呑町7187番地1
TEL:084-956-0255 FAX:084-956-5749
fukuyamaroppou@soujukai-fukuroku.or.jp https://soujukai-fukuroku.or.jp

創樹会 webサイト▶

■題字：田中 盧雪
■誌面イラスト/作品：佐々木和徳、上之昌道、橋高博枝
■誌面文字：内海 卓雄、藤井 恵子



中澤健さん お別れの記

健さん、少し早すぎるのではないかな、あなたにはまだまだ世界平和のためにも元気で居て欲しかった。今ごろはフィロミナと会っているかな。お酒好きの先輩方も大勢いるでしょう。

去る七月十六日、永年マレーシアで福祉を探索された中澤健さんが亡くなりました。ペナン島で障がい幼児と家族のための「ファーストステップセンター」や知的障害者の働く場「ステップングストーンワークセンター」などを實現させ、「アジア地域福祉と交流の会」(ACE)を設立後、ボルネオ島サラワクのロングハウスでイヴァン族の人たちとの生活をはじめ、言葉がななく会話ができない少女フィロミナとの出会いから、デイセンター「ムヒバ」の建設を決意、合わせて「トイボート」による奥地への支援活動など「いろいろな意味で不利を被っている人たちが対象にするのが福祉活動」と、ボルネオ島未開の地に障害福祉の種を蒔き帰国。徳島で新たな活動を始めていたところでした。

中澤さんは、旧厚生省障害福祉専門官として勤務。通勤制度の生みの親でもあります。私は、その当時から親交を重ね、マレーシアには四度



西山理事長離任式で行われた花束贈呈の様子

だと、六方学園(広島)時代の子どもたちとの命懸けの出来事などと一緒に話され、私はその「七難八苦我に与えたまえ」に共鳴。「あんずの家」開所に踏ん切りがついた瞬間でした。

昭和四十年(一九六五)八月「こぶしの村建設準備委員会」発足

昭和四十一年(一九六六)三月六日「あんずの家」入所式。建設準備委員十名・スタッフ三名・支援者二名のささやかなものでした。

昭和四十一年(一九六六)十月「日本初の重症心身障害児施設(島田療育園)を訪問。素晴らしいナースとの出会いがありました。「このお嬢さんは目も見えないし音も聞こえません。でも、うれしい時には右足の親指をそっと動かしてくれるのですよ」と囁いたナース。いつも「シーツや毛布に隠れている足指がそっと動く、それも嬉しい時に」を発見したナースのすばらしさに感動し「こんな職員になる」ことを目標に、今日まで歩き続けてきました。この頃、鞆の仙酔島の山に上り、海を見ながら、「この道を歩き続ける」決心をしたことが、昨日のように思い出されます。昭和四十二年(一九六七)六月「こぶしの村」建設にむけて、一円玉募金・街頭募金・人形劇団ブーク開催・花卉の販売などを企画し、約八十五万円の資金ができる。

昭和四十五年(一九七〇)五月「しかし、「お前のような頭デッカチはいらん」と宣言され、命がけて開所したこぶしの村「あんずの家」をやむなく閉所。その後、田中了諦園長のお誘いで、福山六方学園に入職しました。(人は石垣)。田中了諦の石垣となり、防波堤となることを決意。以来、「田中了諦のあるところ西山あり」と、いつもともに歩くこととなります。

それから五十年余り、世の中では、福祉従事者が福祉労働者といわれるようになり、職業病発生や労働組合が作られるなど大きな変遷もあった中、私は広島県知的障害者福祉協会(旧広島県精神薄弱者愛護協会)及び福山手をつなぐ育成会(旧福山精神薄弱者育成会・福山手をつなぐ親の会)の設立といった様々な制度づくりや仲間づくりに携わり、さわり織りや「とつておきの芸術祭」との出会いもありました。

知的な障害のある人たちによる「書きなぐられた一本の線、一つの曲線」。その中に込められた想いや感じる力から生まれる驚異的なエネルギーと作品。そのすこさや美しさに惹かれ、「命のある人間が命のない機械の真似をするのはおかしい」との思いを重ね、「アート活動」を通して命の素晴らしさを学び、「作品はその人の命」「作品は人を選ばない」「作品が輝けば人も輝く」「スポットライトの当たらないところにスポットライトを!」との信念から、平成二十四年(二〇一三)には鞆の津ミュージアムを設立するなど、様々な差別・区別を忌避する気持ちを持ち続けています。

この六十年の生きざまはまだ語りつくせませんが、私はこのようにして重い知的障害の人たちと出会い、ともに歩いてきました。現在、大変なコロナ禍の中ですが、みなさんの「人間力」「受容力」「寛容力」の高まることを願って、終わりといいたします。

令和四年(二〇二二)十月吉日

社会福祉法人創樹会前理事長 西山堅太郎

身体は献体として、大学病院に託されたことでした。

私たちは、五月二十九日に阿波市のお宅で歓談したばかり。八月十二日、送られてきた「中澤健闘病記」により旅立ちを知らされ、そのあっけない別れに驚愕し、言葉を失いました。

「徳島の会」やACEも気になります。ですが、安らかにお休みください。

社会福祉法人創樹会前理事長

西山堅太郎



福山六方学園創設55周年式典での中澤健さま(右)と西山前理事長(左)

マレーシアでの活動は、妻・和代様との共著『フィロミナの詩がきこえる』にまとめられ、帰国後も「世界平和をめざす徳島の会(WPCT)」を設立されました。「最後まで自分の信念に忠実に行動をしよう」と頑張った人でした」とは和代様の弁。

七月十七日十九時には、オンラインで司式「枕辺の祈り」が行われ、心のこもった手造りの葬儀となり、お

ふぁんたす

夏祭り

ふぁんたすの夏祭りでは、射的・輪投げ・スーパーボールすくい・ヨーヨー釣り・わたあめ・かき氷のコーナーを設け、チケットを持って、各コーナーを回って楽しみました。

射的では色々な景品があり、みんな狙いを定めて真剣な表情！で楽しんでいました。迎えに来られたお家の人に「これ見てー、こーやってゲットしたんよ！」と嬉しそうに景品を見せようとする姿がとても微笑ましく、夏の楽しい思い出の1コマになりました。

ふぁんたす 小林 倫子



川遊び

子どもたちは普段、下校後の2〜3時間程度をふぁんたすで過ごしています。しかし夏休み等の長期休暇中は、10時から16時までの1日利用の日を設け、普段はできない季節の遊びや楽しい体験ができる場にしています。今夏は、加茂町にある四川ダム・皆の憩いの広場に行ってきました！自然豊かで人も少なく、水深も浅い川は、低学年児も安心して楽しめる絶好のスポット。水鉄砲に生き物探し、岩渡りなど水遊びが盛り上がりました。

ふぁんたす 田中 順子



ザリガニ釣り

今年も大門町の住宅街にザリガニ釣りに行きました。到着後は側溝や用水路を回り、ザリガニのいるポイントを探していきました。見つけても素早く逃げるザリガニに悪戦苦闘する子が多い中、細い隙間にいるザリガニを竿で突いておびき出し、網で捕まえようと、友だちと協力して10分程粘ってやっとの思いで捕まえた子もいました。好きな事、興味のある事に対して見せる集中力、忍耐力に感心したひとときでした。

ふぁんたす 池田 勇太



福山六方学園

デイキャンプ

8月9日(火)に、福山六方学園でデイキャンプを行いました。夜ご飯に、子ども達と職員でカレー・サラダ・フルーツポンチを作りました。手洗い消毒、マスク・エプロンを着用するなど感染対策を行った上で調理しました。自分達で作ったカレーを美味しいと言いながら食べている姿を見て、スタッフ一同とても嬉しく思いました。その後に行ったキャンドルファイヤーでは、真っ暗な部屋にたくさんのキャンドルを並べた様子がとても幻想的でした。前施設長によるレクリエーションで踊ったり歌ったりと楽しんでから、最後は、みんなで花火をしました。手持ち花火から噴出花火と普段体験しないような事でとても盛り上がりました。

福山六方学園 佐々木 かれん



あゆみ苑成人寮

夏祭り

あゆみ苑成人寮の夏祭りでは、日中活動のグループ別にファッションショーを行いました。各グループの特徴が出ていて、笑いあふれるものになりました。午後からのダンスでは、手拍子をしたり楽器を鳴らしたり色々な楽しみ方をしていました。お化け屋敷は「怖かった」と走って出て来る人や、笑顔で出て来る人など様々でした。なかなか外出ができない状況ですが、久しぶりの行事で皆さんリフレッシュできたかなと思います。

あゆみ苑成人寮男子棟 於保 翔大



児童発達支援 すてっぷ

夏のプール活動

毎年、夏の時期はプール活動をしています。プール活動は、からだ全体で水と触れ合うため、五感を刺激し、バランス感覚も養えます。しかし何より良いのは、評価にさらされることなく、みんなとからだを思い切り使って遊び「体をひらいて、心をひらく」へ繋がることです。コロナの影響で小グループに分かれての活動となりましたが、夏ならではの遊びを通して、みんな一回り遅くなったと思います。

児童発達支援 すてっぷ 松岡 正治



ONE-すてっぷ

夏祭り

「子ども達に夏らしい思い出を作ってもらいたい！」という職員の思いから、活動の中で夏祭りを行いました。釣り堀は、様々なキャラクターの折り紙を磁石の付いた釣り竿で釣り、「このキャラクター知ってるよ!」「これ釣りたい!」と狙いを定める姿が見られました。射的では、ペットボトルのキャップを飛ばし、プラカップを撃ちました。集中して一つずつ撃つ子や、友だちと「せーの!」の掛け声でどちらが先に撃てるかを競う子など、それぞれの楽しみ方をしていました。

ONE-すてっぷ 土屋 文恵



さわらび

夏祭り

8月末日、さわらび・きらりにて夏祭りを行いました。定番の射的やボールをおたまに乗せて落とさないようにコースを一周するボールすくい、ゲートボールなどを行い、クリアすると景品としてお菓子の詰め合わせやコーヒースティック、皆さん嬉しそうにされていました。新型コロナウイルスに配慮し、建物内での小規模なものではありますが、皆さん、夏祭りの雰囲気を感じてとても楽しまれていました。

さわらび 山口 慎平



七夕

今年も、さわらび・きらりにて七夕の飾りつけを行いました。日中の創作活動の中で、皆さんそれぞれ願い事を短冊へ書かれ、他にも提灯や輪飾り、吹き流しなどの七夕の装飾や、夏らしくスイカをかたどった飾りも作っていきました。そして七夕当日、皆さんが書かれた短冊や作った装飾を、「願いが叶いますように!」と気持ちを込めて笹の葉へ飾っていきました。

さわらび 山口 慎平



学
園
の
日
々
夏

創樹会 インターンシップ

地元の学生さんに向けた
職場体験の受け入れを行っています！

福六アーカイブを用いたミニ展示の
飾り付け作業をしている様子

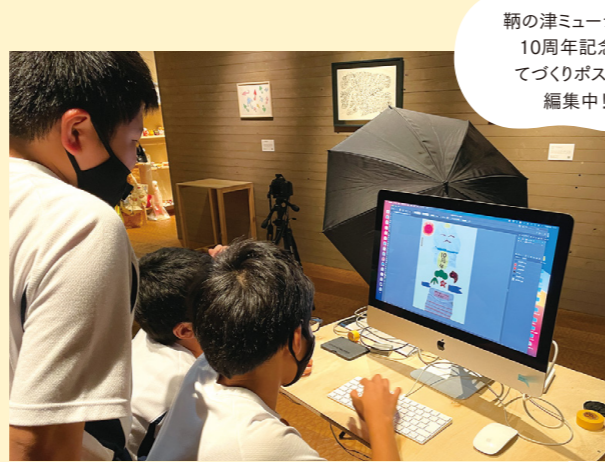


2 8月22日～26日 BINGO OPEN インターンシップ

備後地域四大学の連携事業となる「BINGO OPEN インターンシップ」。今回、創樹会では、福山大学から2名の学生を受け入れました。

放課後等デイサービス「ONE-すてっぷ」と「ふぁんたす」には、心理学科の学生が参加。ONE-すてっぷでは、朝から来所するたくさんのお子様と一緒に遊んだりしながら、様子をよく見て、丁寧に声かけをしていました。ふぁんたすでは、川遊びにも一緒にお出かけし、水鉄砲で濡れながらも笑顔で子どもたちと関わるなど、5日間通して、自ら設定した「課題発見力」「挨拶・笑顔」「傾聴力」という目標を意識しながら取り組んでいました。まだ、受け入れのプログラムは十分ではありませんが、仕事の意義や楽しさが伝わっていただければいいなと思います。

メディア映像学科の学生を受け入れた鞆の津ミュージアムでは、学生さんの興味にあわせたミニ展示企画をはじめ、展示造作からキャプション作成・広報物デザインまで全てやってみよう、ねらいを設定。展示の起点ともなる創作現場を見学したり、作品のアーカイブ作業を体験していただくなどして全日程を終えました。作品を通して、作者の多様な感性にふれるきっかけをつくる仕事もまたひとつの「福祉」。そんなことを感じてもらえるようになれば、福祉の世界はより身近なものになれるのかもしれない。



鞆の津ミュージアム
10周年記念の
てづくりポスター
編集中！

1 7月5日～7日 チャレンジ・ウィークふくやま

福山市が進める職場体験学習「チャレンジ・ウィークふくやま」の一環として、鞆の津ミュージアムでは、鞆の浦学園7年生(中1)3名を受け入れました。昨年に続いて2回目の受け入れとなります。展示撤収、額装、レーザー水平器を用いた飾り付けから作品撮影まで、福祉とともにあるギャラリーの様々な仕事を体験していただきました。最後は広報業務として、パソコンを操作しながら、当館10周年のお祝いポスターを3人共同で制作。たのしみながら、体験を終えたようでした。



利用者さんの作品を素材にした
雑貨づくりに没頭！

3 8月29日～9月2日 尾道市立大学 インターンシップ

経済情報学科と美術学科の学生2名を鞆の津ミュージアムで受け入れました。尾道市立大学との協働は創樹会として初。今回のねらいは、利用者さんの作品を素材に使った雑貨の企画制作です。1～2日目は雑貨づくりを念頭に、さわらびで現場支援を体験していただきました。3日目からは鞆の津ミュージアムへ。福祉雑貨の現物にふれた後、制作を開始。完成までに、生活支援・企画考案・手仕事・デザイン・広報といった関連業務一式を体験し、全日程を終了しました。雑貨づくりは、障害福祉の現場を社会にひらき、たくさんの方々をつなぐ縁(よすが)となる。この職場体験が、そんな発見につながっていけばと思います。

いのちを想う

いのちの日

八月十一日、この日は平成十年にさわらびでの行事中の事故で亡くなった方の魂を弔い、同じことを二度と繰り返さないようにと誓いを新たにするための大切な一日です。コロナウイルス感染予防のため、利用者の参加は代表の方のみで、距離も取りながら集いを行いました。事故の詳細を確認し、過去の事故として風化させないこと、「命を守る」という決意など、その日感じたことを大切に、日々の支援・対応をより良いものにしていきたいと思えます。



さわらび 横溝 貴文

救急救命講習

八月十一日(木)に、さわらびにて救急救命講習が行われました。今回の講習では、新型コロナウイルス感染予防の観点から、これまでの内容とは異なる部分が増えつつありました。なかでも大きく変わったのは、正常な呼吸の判断方法です。以前は、近づいて肌で感じる方法でしたが、今回は、距離をとって観察する方法となりました。そして、私たちが行える蘇生法は胸骨圧迫が主となります。突如として私達に对应が求められる際には、今回学んだことを生かして対応したいと思えます。



サポートセンターひびきの家 栗田 寿樹

あゆみ苑成人寮
夜間退避訓練

八月二十九日(月)、あゆみ苑成人寮にて夜間退避訓練を行いました。実際に非常ベルを押し、南消防署と連絡を取り合いながら行う本格的な訓練です。今回の夜勤者役は二年目の職員が多く、始まる前は緊張した様子でしたが、訓練が開始すると、キビキビと的確な動きをしており、逞しく感じました。あつてはならない火事ですが、万が一に備えて日頃から防災意識を高く持ち、利用者さんの命を守るようにしていきたいと思えます。



あゆみ苑成人寮 森田 宗寛

寄贈

さくらへの支援、
ありがとうございました

社会福祉法人広島県共同募金会様より「令和三年度NHK歳末たすけあい配分金」を受け、さくらに「トヨタハイエースコミューター」がやってきました。新しい車両を寄贈いただいたおかげで、利用者さんの送迎などで活躍しています。また、生活協同組合ひろしま様から、活動支援の助成金として「寄付をいただきました。さくらのさき上げから数えて二十二年を迎えますので、慰労会の記念品購入に使わせていただきました。そして、全労連労働組合様からは、プロジェクトの「寄贈がありました。すでに、さくらでは多くの活動の中で活用させていただいています。ご寄付いただきました皆様には、感謝申し上げます。ありがとうございました。」



天満屋贈呈式の様子



トヨタハイエース コミューター